



「新しい一人の人」(要旨)

聖書箇所：エペソ人への手紙2章11～22節

【1】 思い出してください

使徒パウロは手紙の読者のキリスト者に「ですから、思い出してください」と呼びかけました。何をでしょうか？キリストを信じる以前は、誰もが例外なく「自分の背きと罪の中に死んでいた者」で「生まれながらに（神の）御怒りを受けるべき子ら」であったこと、けれども神はそのような者を愛し、限りない恵みにより、死んでいた者をキリストとともに生かしてくださったこと(エペソ2:1～10)を思い出すよう、パウロは促したのです。なぜ思い出す必要があったのでしょうか？

【2】 新しい一人の人—教会—

教会が誕生して間もない頃、キリスト者になってもそれまでの生まれ、習慣、そして背景に固執する者たちがいました。例えばユダヤ人と異邦人、割礼と無割礼による対立です。こうした違いから、相手に敵意を抱き、敵対関係を築いていたのです。私たちも、様々な理由から一つになれないという経験はないでしょうか？相容れないものを抱える相手との間に隔ての壁を設け、時に争いを回避するために自然と距離をとろうとします。

そんな私たちに、パウロは「ですから、思い出してください」と語っているのです。イスラエルの民と異邦人もそうであったように、私たちも例外なく、皆、神から離れた者でした。しかしキリストの救いのみわざを信じ、神に近づく道が示されたのです。神の深いあわれみと愛、キリストの十字架の血によって救われたことを思い出す時、自分と他者を比較し相手を裁くことから解放されます。

さらにパウロは真の平和と和解について語ります。すなわち、キリストの平和が二つのものを一つにするのだと。これは人間の努力で達成できるものではありません。パウロは言います。それを実現させるのは

「新しい一人の人」(同 2:15)（ひとつの教会）だと。パウロはキリスト者に、あなたがたはキリストの十字架によって神と和解し新しい人として生まれ変わったのだと言います。新しい人とは、敵意や敵対する苦々しい思いを、キリストによって十字架上で滅ぼしてもらった者のことです（同2:15～16）。

►フィリピン・キル大統領「妻子を殺されても選んだ赦し」「《許し得ぬを/許せし人の/名と共に/モントンバ》を/心に刻む」(上皇后が2016年に詠んだ歌)」(2023.8.11.朝日新聞)

【3】 教会の成長

パウロは新しい一人の人である教会を建物にたとえます。教会は、使徒たちや預言者たちが伝えた神のことばの土台の上に建てられます。神のことばが教会の土台です。そして教会の要の石はキリストです。「堅く据えられた礎の、尊い要石」(イサヤ28:16)であるキリストにあって、建物の全体が組み合わされて成長するのです。教会は一人ひとりがキリストにばらばらに結びついて成長するのではなく、キリスト者同士が有機的に結びつくことによって「ともに築き上げられる」のが教会の姿です。それを助ける重要な働きを担っているのが御靈です(エペソ2:18,22)。御靈は私たちのうちにある罪に対する自覚を起こさせます。そしてキリストの十字架以外にその罪を取り除くことはできないという信仰に導きます。私たちが、キリストこそ私の救い主だと受け入れた時に、キリストのからだにつながるのです。御靈はみことばをもって励まし、弱い私たちを助けて下さいます。御靈によってからだの一致が保たれるのです(同4:3～4)

►私たちの生まれ持った性質である敵意はキリストの十字架によって滅ぼされました。新しい人として、キリストの平和に生きることが出来ますように。